令和3年度　福井南特別支援学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	児童生徒の身に付けたい力を明確化し、新学習指導要領の指導内容に基づいた個別の指導計画を作成し、学習の成果を把握する。	教員間、教員と保護者で十分に話し合い、身に付けたい力を明確化した指導計画を作成することができた。さらに教員間で年間計画を見直す中で、学習指導要領を十分に読み込み、指導計画に教科ごとの指導内容を適切に取り入れて作成した成果が出ていると思われる。	今後も教員間、教員と保護者で十分に話し合い、児童生徒の身に付けたい力を適切に把握し、明確化した目標を設定したい。また、教員間で3つの観点を意識した評価について考え、保護者に学びに向かう力や問題解決能力の評価についても伝えていきたい。
	新学習指導要領に基づき、児童生徒の身に付けたい力を明確化した授業づくりに取り組む。	教員間で身に付けたい力を検討し、授業内容な支援方法について話し合い、目標を共有して授業を行うことができた。保護者とは懇談会や日々のやり取りを通して子どもの頑張っている姿や伸びた点を伝えることができた。これらの成果が出ていると思われる。	今後も身に付けたい力を明確にした授業づくりを行うため、教員間で子供の実態に合った年間指導計画を作成、見直しを行っていきたい。さらに、評価についても授業研究会等で話し合っていきたい。保護者に対しては、保護者と身に付けたい力を共有したうえで、どう伸びたかをより具体的に伝えていきたい。
生徒支援	教職員が人権意識を高め、人とのかかわり方についてきめ細かな支援・指導を行い、積極的にいじめ防止に努める。	係が各学部主任と連携して指導すべき内容や方法について考え、授業実践やアンケート調査を行ったことで、全教職員の意識を高めることにつながった。生徒間では執行部が思いやりアンケートを実施し、思いやりのある行動について啓発を図った。	今後もアンケート調査を行い、人とのかかわり方やストレスの対処法など授業の中で児童生徒に具体的に学ばせていきたい。さらに教職員の人権意識を高めるため、各学部の取組を紹介したり、いじめ対策委員会として積極的にいじめ防止について発信していきたい。
	学校の人権教育の取組や学習の様子を保護者に発信し、家庭と連携を図る。	全教職員が人を傷つけてはいけないとう意識を持って支援・指導を行い連絡帳等で保護者に発信した。また、係で話し合い、いじめ防止を含む人とのかかわり方に関する取組を学期に一度ずつ各学部だよりに掲載した。これらの成果が出ていると思われる。	今後も教師一人一人が人権意識を高く持ち、人とのかかわり方について計画的に指導を行っていきたい。係は、学習の様子や取組についてしっかり伝わるよう掲載の仕方を工夫しながら、定期的に学部だよりや生徒指導通信を通して保護者に発信していきたい。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	日々の学校生活における進路支援の実践やその方法を改めて学校全体に対して意味づけることができた。保護者に対しては様々な機会を通じて児童生徒の進路実現に関する情報を提供することができた。さらに、保護者が日頃から感じている希望や不安をより的確に把握できるとよい。	今後は教員を対象とした進路支援に関する学習会を催したい。実際の支援方法を集約し、教職員間で周知したい。保護者に対しては進路希望調査の結果や保護者懇談会の内容について情報を共有し、保護者の抱く希望や不安を把握し、適切に情報を提供したい。
	高等部における産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	生徒が、産業現場等における実習を経験することで、進路選択について考えることができた成果が出ていると思われる。教員間では実習の準備や振り返りについて、連携をさらに深められるとよい。	今後も進路希望調査や保護者懇談会、生徒との懇談の内容を担任と共有して、本人に適切な実習先を提示して、生徒が主体的に進路について考えられるようにしたい。さらに、実習前に行う教員対象のオリエンテーションの内容を充実させ、教職員が実習の準備や振り返りをしやすくなるように支援したい。
保健防災安全	感染症に配慮した避難訓練や引き渡し訓練、防災研修を行い、教職員一人一人が具体的な役割について理解する。	全教職員に訓練や防災研修のたびに危機管理マニュアルやアクションカードに目を通す機会を設け、一人一人の防災に対する意識が高まった。保護者に対しては防災だよりやHPに訓練の様子を掲載した。これらの成果が出ていると思われる。	R4年度に向け危機管理マニュアルの全面改定を行う。見やすい内容を心掛け、一人1冊携帯する価値があるものにしたい。保護者に対しては防災だよりが読みやすくなるよう記事の内容や文字数を見直していきたい。
	感染症対策を徹底し児童生徒、教職員が衛生面に留意し感染防止に努める。	「手洗いチェッカー」や「おててぽん」などの使いやすい教材を用意したり、ほけんだよりにイラストを用いて正しい手の洗い方やマスクの着用の仕方を繰り返し掲載したりすることで、児童生徒に分かりやすく伝えることができた。また、石けん液を十分に用意し、必要なところに配布できた。これらの成果が出ていると思われる。	今後も継続して教材や消耗備品などの管理や広報、補充を行い、指導しやすい環境を整えていきたい。そして、児童生徒の感染防止への意識を継続させたい。
地域交流	地域（家庭・福祉・医療等）と連携し、特別支援教育に関する理解を促す。	連絡帳、学部だより、HPなどで本校の教育活動について発信した。また、関係機関との支援会議で本校児童生徒について必要な情報を提供し、今後の必要な支援について共通理解を図った。これらの成果が出ていると思われる。	今後も児童生徒の状況を的確に把握し、必要に応じてより速やかに家庭や地域、関係機関と連携が取れるよう努めていきたい。
	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人とかかわる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	活動前、居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習のねらいについて担当者間で話し合い、共通理解を図った。活動後、相手先にアンケートを行った。肯定的な感想が寄せられ、互いにとって貴重な交流の機会となっていることがうかがえた。	今後も相手先と、活動前に児童生徒のねらいを共通理解し、活動後に感想を聞き取り、それを次回の交流に生かすことで、児童生徒の交流のねらいをより達成できるようにしていきたい。
組織運営	校内メッセージやオンライン会議の活用を行い、短時間でかつ参加意識の高い会議になるように工夫をする。	スクールウエア（SW）内の会議室で意見交換したり、メッセージにコメントを付けたりして、実際に集合して行う会議を減らした。SWで意見を求める場合、必要な資料を配信する必要があったので、事前配信ができた。集合型であっても事前に資料配布（配信）することで会議時間を短くする工夫ができた。	実際に顔を合わせないことも増えるため、自分のペースで仕事が進められる反面、任せられっぱなしになることもある。分担した業務がきちんと進められるように会議や打合せなどに自分の意見を持って参加するようにしたい。